

## 令和三年度予算案 反対討論(案)

立憲民主党・無所属  
武内 則男

立憲民主党・無所属の武内則男です。私は会派を代表し、令和三年度予算案に、反対の立場で討論を行います。

わが国に新型コロナウイルスの感染者が出始めてから、すでに一年あまりが経ってしまいました。亡くなられた多くの方々に、心より哀悼の誠を捧げます。わが党の参議院幹事長だった羽田雄一郎さんも、昨年未だに急逝されました。痛恨の極みであり、もっと早くに検査を受けておられればと思わずにはいません。国会議員にも感染された方が出ており、私たちは引き続き、最大限の緊張感をもって国政に臨まなければなりません。

そんな中で、国民には緊急事態宣言を出して、厳しい自粛を求めておきながら、政府・与党の幹部が、こそこそと深夜まで会食を繰り返していたことは、まさに言語道断であり、同じ国会議員として恥ずかしい限

りです。自らの行動を一層戒めるとともに、政府・与党の諸君には、改めて猛省を求めます。

この件に限らず、安倍前政権から菅政権に至るも、おごり、ゆるみ、たるみは看過しがたいものがあります。思い起こせば、コロナ禍の昨年末、桜を見る会の問題に関して、遂にウソがばれ、国会で百十八回も虚偽の答弁をし続けたと、謝罪に来た前総理がおられました。あれだけいけしゃあしゃあと答弁した、議事録のどこをどう訂正するかも結局明言できず、全ては「秘書のせい」では、あんまりではないですか。

森友、加計問題も然りです。事実を隠し続け、隠ぺい、ねつ造、改ざんのオンパレード。国会でも、聞かれたことには全く答えようとしない。不誠実、不正直の極みです。そして、人事を握られた役所の皆さんは、要らぬ忖度を繰り返し、官邸官僚だけがわがもの顔に跋扈する。こんな政治に誰がしたんですか。

顧みれば、与党議員の振る舞いにも、許し難いものがありました。一昨年の参院選で、自民党本部から一億五千万円という桁違いの資金を受

け取った河井夫妻は、前代未聞の選挙買収事件を引き起こしました。さらには国会において、何らの説明責任も果たそうとせず、議員の立場にしがみつき続けました。その振る舞いは醜悪そのものです。担ぎ上げた自民党も、これまで何の自助努力、説明責任も果たそうとせず、まさに言語道断と言わざるを得ません。

また、安倍・菅政権の看板政策であるカジノ導入に絡んで、内閣府副大臣も務めた当時自民党の秋元議員をめぐる収賄事件も起こりました。前代未聞の証人買収事件にまで発展した、このカジノ利権をめぐる元自民党議員の振る舞いは、立法府の尊厳を損なう許し難いものであり、言語道断であるとしか言いようがありません。

また、国民の皆さんが日々の生活にも苦しむ中、コロナ対策に全力であたらなければならないところ、今国会でも、ルールを破り、利害関係者と平然と会食を繰り返す総務省の官僚が次々に現れました。驚くほかありません。ましてや、その場には、菅総理大臣が総務大臣だった時に総務大臣秘書官に起用した、菅総理のご長男が同席していたというのですから、これを問題だと思わない方がどうかしています。思えば、

大臣室で平気で業者からお金を受け取ったという農林水産大臣もおられたようですが、大臣も大臣なら、その業者と会食を繰り返していた官僚もいたとのこと。この醜態には、もはや呆れ返るほかありません。どこまで安倍・菅・自公政権は腐りきっているのでしょうか。

安倍・菅政権のコロナ対策も、褒められたものではありません。もちろん、野党は野党の立場として、協力すべきは協力し、正していくべきものは正していきます。われわれが先に提案したなどと、手柄争いのようなことをするつもりは、毛頭ありません。政府・与党の皆さんには、もっと柔軟に、謙虚になっていただき、要らぬこだわりは脇に置いて対応すべきです。そうでないと、入るべき情報が官邸に上がらず、独りよがり、思いつきのような政策が乱発され、国民を不安に陥れるのです。

突然、使われもしない布マスクを配ってみたり、思いつきのように一斉休校をしてみたり、給付金の対応がブレにブレたり、事業者への補償が足りなくなったり、生活困窮者への支援が遅れたりするのです。この間の政府の対応は、まさに「後手後手」の繰り返し、何もかも「小出し」、結

局は「中途半端」の極みであり、是非こうした対応は改めていただきたいと、重ねて主張します。

こうした観点を踏まえた上で、本予算案に反対せざるを得ない理由について縷々申し上げます。

コロナ禍のわが国において、最優先すべきは、感染症のこれ以上の拡大防止と、感染症拡大により窮地に立たされた国民や事業者の救済です。しかしながら、今回の令和三年度予算案のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止のための予算は、予備費の五兆円を除いては、決して多くはありません。

政府は、新型コロナウイルス対策の予算については、令和二年度第三次補正予算で措置済みであるという考え方で、三年度予算では、ほとんど盛り込むことはしませんでした。しかし、三次補正予算にしても、この三年度予算にしても、編成されたのは状況が全く異なる昨年十二月のことであり、その後の第三波のピークや、緊急事態の発令とその対応策については、全く織り込まれてはいません。いずれの予算も、今回

の第三波の事態に対応するためには、全くもって不十分な内容だと言わざるを得ません。

なお、私ども立憲民主党は、他の野党とも協力し、この令和三年度予算案においても、新型コロナウイルス対策のための予算をしっかりとつけるべきとの考えから、委員会段階において、組替動議を提出いたしました。

内容は以下の通りであります。

- 病床や療養施設の確保のため、国がより積極的に関与するとともに、収入の減った全ての医療機関への経済的支援を行うこと、医療従事者等への再度の慰労金支給を行うことなど、「病床の確保や医療機関支援のため」に三兆円、
- ワクチン接種体制の整備・充実や、エッセンシャルワーカーへの定期的公費検査の実施、コロナ検査機器やゲノム解析の普及・促進、保健所の体制強化や出入国管理など、「再燃防止策・封じ込め策のため」に二兆円、
- 生活困窮者や低所得の子育て世帯に対する給付金の支給や、緊急

小口貸付、休業支援金の延長、雇用保険の特例や学生支援など、「暮らしを守るため」に七兆円、

- 事業規模に応じた持続化給付金や休業支援金の給付、無利子無担保融資の拡大・延長、雇用調整助成金特例の延長、地域公共交通機関へ支援など、「事業を守るため」に二十二兆円、

といった充実した内容となっています。

また、コロナ対策以外の予算としても、保育士・幼稚園教諭・介護・障害福祉従事者等の処遇改善や、小中学校における給食費無償化、児童手当特例給付の所得制限の撤回・廃止、消費者行政の強化、DV被害者支援、農業者戸別所得補償制度の復活・充実など、「持続可能な社会の実現や、将来に向けた先行投資等に必要な予算の確保のため」に、二兆円を計上すべきとしています。

しかし、この組み替え動議については、自らの無為無策を横に置き、与党側はこれを一顧だにせず、否決しました。与党の議員諸君に、今回の感染拡大の実態と、それに伴う国民の窮状が、はたして本当に見えて

いるのでしょうか。仮にそれが見えていないなら論外であり、見えていてなお無為無策を貫き通すなら、無責任の極みであります。コロナ禍において、私ども野党は、対策に与党も野党もないとし、数々の異例の国会対応も、容認して対応してきました。同じ立法府に身を置く者として、今回の与党の議員諸君の行動は、極めて残念であると言わざるを得ません。

以上、この令和三年度予算の政府案は、新型コロナウイルス対策という、私たちにあって今、最も必要とされている内容が、極めて手薄となっている一方で、本来なら厳しく精査をして、不要不急な部分をカットすべき従来型の既存予算が、相も変わらず膨張し続けているという、全く以て理解に苦しむ内容となっているのが事実です。このような予算案を、私たちは決して容認することはできません。以上、申し上げて私の反対討論を終わります。

有り難うございました。

以上